

令和元年度 鳥取・島根広域連携協働事業 審査委員講評

事業名	子どもの自然体験推進事業
実施団体名	山陰両県を子ども達の豊かな自然体験の場にする会

評価できる点	<p>①コロナ禍の中で、分散型の啓発イベントとすることで、感染リスクを避けるなど柔軟な対応をしていた点。</p> <p>②フリーペーパーや絵本の作製に力を入れており、内容や構成・デザインなどに工夫がみられる点。</p> <p>③SNSやYoutube等をうまく活用し、「外あそび」での子ども達の楽しそうな様子が伝わってきた点。</p> <p>④それぞれの地域での団体の活動状況が可視化され、一般の子育て世代にもわかりやすい形となっている点。</p>
今後の事業展開に向けたアドバイス	<p>①アンケートやイベントの結果などさまざまなデータの蓄積や、参加者の属性などについて詳細に分析し、今後の活動につなげると良い。</p> <p>②SNSやZoomなどのオンラインツールも併用し、本事業で構築したネットワークを用いて、定期的な情報発信・情報交換を続けると良い。</p> <p>③「外あそび」の大切さを広く知ってもらうために、フリーペーパーやSNSなどを活用し、活動を継続していくことが重要。</p> <p>④ふるさとの自然の中で遊びながら育つことは、子どもたちの帰巣本能を育むことにも役立つ。そう考えれば、定住やUターンにつながる施策とも言える。そんな切り口での活動助成のあり方も考えるべきではないか。</p> <p>⑤自分達自身の活動や思いを中立的、客観的に捉えられるような工夫、例えば、科学的、学術的な検討をおこなえる人材、組織との共同も必要なのではないだろうか。</p>
その他	<p>①「外あそび」を広めるために、親や保育園の意識が変わるよう働きかけ、行政と連携して活動を続けてほしい。</p> <p>②今回の事業でできたつながりをもとに、さらに多くの人を巻き込んで山陰発信の大きなウエーブを作ってほしい。</p> <p>③本事業を恒久的に継続していく上での財務計画は、どのようになっているのか。</p> <p><団体からの回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のプロジェクトで制作した絵本を自主財源で印刷、販売し、鳥取島根連携プロジェクトの継続資金とする ・民間の助成金などに申請する ・事業参画団体は、事業で培われたネットワークを活用して事業を継続する